国際化学肥料ニュース（2011 年 4 月）

肥料業界の 2011 年 4 月動態

＊　3 月 30～4 月 1 日、FMB アジア肥料年度大会は北京で開催された。主催者はイギリス FMB、スイス Key Trading、アメリカ Agrotain、ベラルシーBPC とシンカボール利躍公司であった。今回会議の焦点は

1. 中国が世界肥料市場に対する影響力、特に生産、貿易における政府の政策が国際肥料価格に重大な影響を与えるため、政策の透明性が求められた。

2. インドの化学肥料輸入量の増加が国際化学肥料の価格に及ぼす影響。今年、インドはすでにアメリカ Phoschem との間に 6 ヶ月間に 100 万トン DAP、モロッコとの間に 1 年間 50～100 万トン DAP 契約を締結し、中国との間に 150 万トン DAP の商談を進行中。また、2011～2012 年度に 500 万トン尿素の輸入も予定している。その巨大な輸入量が国際肥料市場価格に与える影響について論議した。

3. 化学肥料の有効利用率の向上、世界肥料プラント新増設等についても論議された。

＊　FAO が 2011 年 4 月に世界の食糧生産と需要に関するデータを公表した。世界人口の増加、主要な食糧生産国における自然災害の多発、バイオエネルギーの増産等により、2010 年から国際食糧価格が高騰した。2011 年 3 月における食糧価格平均指数 252 ポイントで、2010 年 3 月より 60%も増加した。また、食糧在庫/消費の比率は 2000 年 1 月に 31.4%であったが、2010 年 11 月に 21%に減少し、その内訳は小麦が 41.23%から 27.93%、米が 37.14%から 30.13%、トウモロコシが 22.41%から 13.51%に減少した。また、主要な食糧輸出国の在庫率は 2000 年 1 月の 21.9%から 2010 年 11 月の 15.3%まで減少した。

食糧生産量減少の原因は主に自然災害によるものである。2010 年にロシア、ウクライナ、カザフスタン等の旧ソビエト諸国が高温乾燥天候に遭い、小麦の生産量が約 30%減収した。カナダは 8 月からの長雨影響で、小麦の栽培面積が大幅に減少し、今年の収量が 17%減少すると予測される。オーストラリアは旱魃と大雨、飛蝗で、東南部 4 州 50 万平方キロの小麦産地が影響を受けた。これに受け、ロシアとウクライナはすでに小麦の輸出制限を実施している。また、インドも食糧の輸出を制限する動きがある。

バイオエネルギーの需要も旺盛で、2005 年から 2010 年の 6 年間、バイオエタノール生産量が 4032.54 万トンから 10069.75 万トン、消費量が 4193.75 万トンから 10092.09 万トン、価格が 34.94 ドル/100 リットルから 51.44 ドル/100 リットルに上昇した。バイオディーゼル生産量が 488.13 万トンから 2314.3 万トン、消費量が 490.86 万トンから 2283.88 万トン、価格が 86.69 ドル/100 リットルから 118.54 ドル/100 リットルに上昇した。

＊　ヨーロッパからの報道によれば、欧州連合理事会は EU 内の肥料市場を規制する法律に欠陥があると認めた。EU は 2003 年と 2008 年に肥料に関する法律を制定したが、主な目的は尿素、硫安、硝安、りん安（MAP、DAP）、塩化加里等の主要化学肥料を境内各国に流通する際の障碍を解消するものである。これらの法律は有機肥料、土壌改良材を含まないし、肥料が環境に及ぼす影響も考慮していない。欧州連合理事会は専門家委員会を設立し、2003 年から実施された EU の肥料に関する法律を検証し、各加盟国の現行法律、規制と基準を評価し、すべての化学肥料と有機肥料を含む肥料全体の重金属許容量の統一基準等を制定する予定である。

＊　アメリカ農業部から今年の作物栽培状況を発表した。トウモロコシの在庫減少と価格上昇の影響で、今年アメリカのトウモロコシ栽培面積が 9220 万エーカー（1 エーカーは 40.686 アール、以下同）に達し、昨年より 5%、一昨年より 7%増加した。3 月 1 日トウモロコシの在庫量が 65.2 億ブッシェル（約 1.65 億トン）、昨年 12 月より 35%も減少した。一方、大豆の栽培面積は昨年より 1%減の 7660 万エーカー、小麦栽培面積は昨年より 8%増の 5800 万エーカー、水稲栽培面積は昨年より 17%減の 302 万エーカー、綿栽培面積は昨年より 15%増の 1260 万エーカー、もろこし栽培面積は昨年より 4%増の 565 万エーカーである。

＊　4 月中旬、ブラジルが BPC の値上げ要求を受入れた。その契約が CFR510 ドル/トンで 2 万トン塩化加里、値上げ幅は 50 ドル/トンであった。これに伴い、ブラジルはリーマンショック後初めて塩化加里を CFR500 ドル/トン超えた価格で輸入した国である。

＊　Canpotex は今年 1～3 月の塩化加里出荷量が新記録、すでに 280 万トンを出荷した。今年の出荷量が 1120 万トン以上と計画している。昨年の出荷量が 930 万トン。

＊　塩化加里の価格上昇を受け、インドは今年の塩化加里需要量が 600 万トンに下方修正した。インド政府が CFR390 ドル/トンを期待しているが、現在 500 ドル/トンの市場価格から不可能と言われた。現在、各塩化加里メーカーとの商談は中止している。

＊　最新の統計データによれば、2010 年マレーシアの塩化加里輸入量が 190 万トン、インドネシアの輸入量が 220 万トンである。

＊　インドの DAP 輸入契約状況：　インド IPL 及び Iffco とアメリカ Phoschem との間に 4～9 月で CFR612 ドル/トンで 100 万トン、10～3 月で価格未定で 100 万トン。インド Zuari 社とモロッコ OCP との間に 4～12 月で CFR612 ドル/トンで 50～100 万トン。現在、ロシア PhosAgro との間に 100 万トン、ヨルダン JPMC との間に 6 万トンの商談を

行っている。価格は共に CFR612 ドル/トンと予想している。

インドの IPL による尿素入札は 3 月 28 日に行った。140～150 万トンの輸入量に対して計 23 社が応札した。応札価格（CFR 価格）が下記の通り：Kandala 社 346.50 ドル/トン、Pipavav 社 348.50 ドル/トン、Krishnapatnam 社 348.50 ドル/トン、Vizags 社 349.50 ドル/トン。

＊　4 月 11 日、インドのタタ化学は西アフリカのカーボ・ベルデにある尿素工場の 25.1%株式をシンガポール Olam 社から購入したと発表した。購入金額 2.9 億ドル。当該項目はすでに 13 億ドルを投資し、生産能力 130 万トン/年の尿素プラントと対応のアンモニア合成装置を 3 年内に完成する。また、第 2 期にもう 1 本 130 万トン尿素のプラントを建設する計画である。当該項目は Olam 社 62.9%、カーボ政府が 12%を出資している。完成後、尿素生産量の 25%以上をインドに輸出する予定。

大手各社の営業業績

＊　イスラエル ICL は 2010 年の業績を公表した。化学肥料部門では塩化加里販売量 500 万トン、りん酸肥料販売量 170 万トン、売上高は 31 億ドル（前年度より 45%増）、営業利益 9.65 億ドル（前年度より 33%増）。主な稼ぎ頭はアジア地域（インドと中国）売上高 11.02 億ドル、ラテンアメリカ（ブラジル）売上高 5.17 億ドル。

＊　ブラジルヴァーレ社は 2010 年業績を公表した。純利益は史上最高の 173 億ドル、化学肥料部門では売上高 18 億ドル、会社全体の 4%を占める（前年度は 1.7%）、営業利益 1.76 億ドル。その内訳は窒素肥料売上高 3.37 億ドル、りん酸肥料売上高 12.1 億ドル、加里肥料売上高 2.8 億ドル。ヴァーレ社は化学肥料の将来性を重視し、昨年に全投資額の 6.6%を占める 8.43 億ドルを化学肥料分野に投資した。

肥料プラント新規建設

＊　インドネシア国有肥料会社 PT Pupuk Kalimantan Timur 社（Kaltim）は東カリマンタン州 Badak に生産能力 2700 トン/日アンモニアと 3500 トン/日尿素の大型工場を建設すると発表した。総投資 5.77 億ドル、2013 年完成予定。設計と建設は日本の東洋エンジニアリングが担当する。これは Kaltim 社の 5 ヶ所目の化学肥料工場となる。

＊　シンガポール Olam 社は西アフリカのカーボ共和国との間に天然ガス供給協定を締結した。カーボ共和国は 2014 年 7 月から Olam 社とインドタタ化学が完成予定の 130 万トン尿素とアンモニア工場に毎年 7500 億立方メートルの天然ガスを供給する。

＊　ポーランド Z. A. Pulawy 社は政府から尿素と硫安を原料とする液体肥料工場と化成肥

料工場の建設計画が許可されたと発表した。この 2 工場は総投資額 5960 万ドル、2013 年完成予定。

＊　Sunkar 社はカザフスタン西北部 Chilisai 燐鉱石の初期埋蔵量調査報告を公表した。その報告によれば、燐鉱石が Chilisai 地域面積の 40%を覆い、採掘可能量が 2.93 億トン、平均の燐含有量 10.6%、生産能力 160 万トン DAP 工場を建設する場合は、原料燐鉱石の供給年数が 26 年以上に達することが可能と結論された。Sunkar 社は DAP 工場の建設について検討中、今年末に結論出す。

＊　アメリカ Universal 社はユタ州 Paradox 盆地の加里鉱山の掘削作業を開始した。該社はユタ州 Paradox 盆地に 640 エーカーの鉱区を有し、他に 2.9 万エーカーの鉱区を申請中。アメリカ地質局の調査によれば、当該盆地に 20 億トンの加里鉱石埋蔵量がある。

＊　Allana 社はカナダ Liberty 鉱業から 3280 万ドルの資金をもらい、エチオピアの Danakhil にある加里鉱山の前期採掘調査を行う。当該鉱山は塩化加里平均含有量 20.8%、埋蔵量 1 億トンとされている。

＊　4 月 20 日、ウクライナと中国は中国企業がウクライナの Kalush 市（Ｋａｌｕｓｈ）に 10 億ドルを投じて加里肥料工場を建設する覚書を締結した。

その他

＊　チュニジア GCT は 4 月 3 日から Gabes 地域にある DAP 工場の生産再開と発表した。但し、完全回復は 5 月以降で、5 月中旬から輸出再開と予定している。

＊　ロシア政府はロシアの有機材料メーカーSibur 社が OJSC の 26.3%株式を買収する契約を許可した。OJSC はロシアの肥料グループ PhosAgro の子会社で、105 万トン/年アンモニアの生産ライン 2 本、46 万トン/年芳香族有機物の生産ライン 1 本を有し、昨年の生産量はアンモニア 104 万トン、硝安 39.3 万トン、安定性硝安 3 万トン。現在 1500 トン/日の尿素生産ラインを建設中。Sibur 社は昨年に 158 万トンアンモニア、106 万トン硝安、122 万トン尿素、27.1 万トン硫安、9 万トンカプロラクタムを生産した。

＊　オーストラリア Aguia 社はブラジル東北部にある Lucena 燐鉱山の掘削を開始した。当該鉱山の埋蔵深度は地下 15～94m、鉱脈厚さ 0.5～0.7m、りんの含有量 3.1～21.85%。将来、ブラジル年間輸入燐鉱石の 50%に相当する量を生産する予定。

＊　ロシア政府が 4 月 4 日に加里メーカーUralkali と Silvinit の合併を許可した。許可条

件の一つは2013年までに国内客先に塩化加里を販売する際に現行の優遇価格を維持すると同時に前年度の国内販売量と同量の塩化加里を備蓄する。

＊　タイの「バンコクポスト」紙の報道によると、国内農業団体からの圧力を受け、タイ商業省が 4 月 7 日から予定されている化学肥料国内販売価格を 10～35%値上げする決定を中止した。国際肥料価格の上昇と中国の肥料輸出関税の変更により、現在タイ国内化学肥料の在庫量が年始の 100 万トンから 40 万トンに減少した。今回肥料価格値上げ中止の決定が来るタイ総選挙に対する政治的配慮もあると推測される。

＊　バングラデシュ政府は夏季の電力供給を保証するため、国内 4 箇所の肥料工場を閉鎖した。閉鎖された工場は Ashugani 肥料工場、Jamuna 肥料工場、Chittagong 尿素工場と Karnaphuli 肥料工場である。その 4 工場に供給する予定の天然ガスを発電に転用するという。

＊　ヨーロッパ加里肥料供給者組合（APEP）は EU 理事会に、7 月 13 日以降もロシアとベラルーシから輸入された塩化加里に対して、反ダンピング関税を継続する要望書を提出した。1990 年代から EU はロシアとベラルーシの塩化加里に反ダンピング関税を徴収してきたが、2006 年にその反ダンピング政策に変化があり、それ以降、ベラルーシが EU に 75 万トン免税の塩化加里を輸出した。APEP はドイツ K+S、イスラエル ICL の EU 子会社、イギリス CPL とスペイン Iberpotash が結成したものである。